

日本中東学会ニュースレター

JAMES
NEWSLETTER



No.129
2012/11/27

電子化第1号

目次

第29回年次大会のお知らせと研究発表の募集.....	2
第15期評議員選挙の投票締め切る、理事選出へ.....	4
理事会報告.....	4
『日本中東学会年報（AJAMES）』編集委員会報告.....	6
アジア中東学会連合（AFMA）第9回大会に参加して.....	7
寄贈図書.....	9
会員の異動.....	10
事務局より.....	11
編集後記.....	11

第 29 回年次大会のお知らせと研究発表の募集

来年度の年次大会は、大阪大学で開催されることになりました。大会の実施要項・研究発表応募要項が下記のとおり決定しましたのでお知らせいたします。

大会は、例年通り、1日目が公開シンポジウムと総会、2日目が研究発表になります。会員の皆様には、大会の成功のため積極的にご参加くださるようお願いいたします。

開催日時:

2013年5月11日（土）大阪大学 豊中キャンパス

12日（日）大阪大学 箕面キャンパス

（初日と二日目では開催場所が異なります。ご注意ください）



[初日会場の豊中キャンパス大学会館入口]

大阪大学 年次大会 実行委員会

委員長：高階美行

事務局長：近藤久美子

委員：勝田茂、藤井章吾、山根聡、藤元優子（以上、大阪大学）、菅瀬晶子（民博）、長岡慎介（京都大学）、赤堀雅幸（上智大学）、吉村慎太郎（広島大学）、岡崎桂二、菊池忠純（以上、四天王寺大学）、後藤裕加子（関西学院大学）、富田健次（同志社大学）、臼杵陽、新井和広

[二日目研究発表の会場となる箕面キャンパス]



研究発表の応募要項は以下のとおりです。研究発表をお考えの方は、下記をお読みの上、ご応募ください。

1. 研究発表 研究発表を希望される方は、12月7日（金）までの間に年次大会実行委員会までメール（james2013osaka@gmail.com）にてご応募ください。メール発信が不可能な

方は文末の連絡先まで、郵便にて上記の日付必着にてご応募ください（FAXではお受けできません）。応募の際、下記の点をお知らせください。

- 1 氏名（ローマ字表記を併記）、所属（大学院生の場合はその旨を表記）、連絡先 メールアドレス
- 2 発表タイトル（仮題も可）と発表のおおよその骨子（発表演語が日本語の場合は400字程度、日本語以外の場合は200 words程度で、内容とテーマが分かるもの。正式の「要旨」は、実行委員会での採否の決定後、改めて発表予定者に執筆をお願いすることになります。）
- 3 使用希望機器（プロジェクター等の台数に限りがありますが、可能な限りご希望に応えるようにします。また、パソコンは可能な限り発表者ご自身でご用意ください。）

2. 企画セッション 第29回年次大会では、会員による企画セッションも公募します。今大会では、昨年度大会と同じく、国際化推進の観点から日本語以外の言語によるセッションのみ募集します。特定のテーマについてセッションの企画をご希望の方は、以下の要領でご応募ください。締め切りは、研究発表と同じく12月7日（金）です。

持ち時間は、発表・コメント・質疑応答を含めて1時間30分で、発表者は3名程度とします。コメンテーター（討論者）をつけるかどうかは自由ですが、司会者は必ず1名必要です。発表者と司会者、およびコメンテーターはすべて日本中東学会会員であることとします。



企画責任者は、1) 企画セッションのタイトル、2) 企画の趣旨（400 words程度）、3) 企画責任者の氏名（ローマ字表記を併記）、所属、連絡先メールアドレス、4) 発表者の一覧（氏名 [ローマ字表記を併記]、所属）、5) 各発表者の発表タイトル（仮題も可）とその骨子（200 words程度）、6) 使用希望機器、を年次大会実行委員会事務局までメールでお知らせください。司会者とコメンテーターは応募の時点で確定していなくてもかまいません。なお、調整の都合上、企画の内容について、事務局から適宜問い合わせ・ご相談をさせていただくことがあります。

3. 託児所 託児所の利用を希望される方は、大会実行委員会事務局までお申し出ください。
4. 宿泊について 年次大会の開催時期は、ゴールデンウィーク翌週になりますが、年次大会へ参加予定の方は、十分余裕を持って宿泊予約されることを強くお勧め致します。
- 以上、どうぞよろしくお願い申し上げます。

連絡先 日本中東学会第 29 回年次大会実行委員会事務局

〒565-0862 大阪府箕面市粟生間谷東8丁目1番1号

大阪大学言語文化研究科言語社会専攻 近藤久美子研究室気付

tel:072-730-5305 (fax共用)

E-mail: james2013osaka@gmail.com (可能な限りメールでご連絡・お問い合わせいただければ幸いです。)

(近藤久美子)

第 15 期評議員選挙の投票締め切る、理事選出へ

第 15 期 (2013～14 年度) 評議員選挙の投票が 2012 年 11 月 15 日 (木) に締め切られました。この後、11 月 30 日 (金) に選挙管理委員 4 名によって開票を行い、新しく選出された評議員の互選によって理事を定めることとなります。

投票していただいた会員の皆様には御礼申し上げます。また、新しく選ばれた評議員の方々には理事選挙での投票をお願いすることとなります。今後の学会の方向性を決める大事な選挙ですので、何とぞよろしくお願いいたします。



理事会報告

【2012 年度第 2 回理事会】

日時：2012 年 10 月 20 日 (土) 9:30～11:00、11:30～12:00

場所：東京大学本郷キャンパス、法文 2 号館第 3 会議室

出席：臼杵陽、林佳世子、長沢栄治、三浦徹、小松久男、東長靖、桜井啓子、大稔哲也、山岸智子、飯塚正人、新井和広

欠席：小杉泰、黒木英充、酒井啓子、青山弘之

[議題]

1. 日本中東学会第 15 期役員選挙経過報告および選挙管理委員について
選挙権確定のための会費納入締め切り（2012 年 10 月 10 日）前に会費納入の呼びかけをしたこと、有権者は約 400 名となったこと、予定通り 10 月 24 日に投票用紙を発送できる見通しであることが報告された。
選挙管理委員として、松本弘、岩崎えり奈、勝畑冬実、岡戸真幸会員を指名した。
2. 2012 年度公開講演会経過報告
第 18 回公開講演会準備が順調に進んでいることが報告された。（本年度の公開講演会の詳細については次号に報告を掲載する予定です。）
3. 2013 年度公開講演会・科研申請について
第 19 回公開講演会の企画等について報告がなされた。また、本年度も科学研究費補助金に応募することが確認された。
4. AJAMES 編集状況・科研申請について
AJAMES 28-1、28-2 の編集状況について報告がなされた。（詳細は『日本中東学会年報（AJAMES）』編集委員会報告」参照。）
AJAMES の科研について、来年度から欧文定期刊行物関係の申請枠組みが変更されるため、学会としてどのような方針で臨むかが話し合われた。
5. 第 29 回年次大会実行委員会について
日本中東学会第 29 回年次大会実行委員を承認した。（実行委員については「第 29 回年次大会のお知らせと研究発表の募集」参照。）
6. AFMA 大会報告
臼杵・新井・酒井（以上、理事）が日本中東学会を代表して、釜山で開催された AFMA 大会に参加したことや、今後の AFMA の課題について報告がなされた。（AFMA 大会の詳細については「アジア中東学会連合（AFMA）第 9 回大会に参加して」参照。）

（事務局）



『日本中東学会年報 (AJAMES)』編集委員会報告

『日本中東学会年報』(AJAMES)編集委員会より、ご報告いたします。

1. 28-2号編集中

現在、28-2号の編集作業を鋭意進めております。特集 A New Trend of the Study on the Middle East in Japan: Searching for its Root、論文2本、研究ノート1本、研究動向1本、書評2本が掲載されます。同号は来年1月に刊行を予定しています。

2. 投稿原稿締切のお知らせ

次回 29-1号への投稿締切は12月1日です。論文、研究ノート、書評、中東研究博士論文要旨、特集などの投稿をお待ちしております。

またこれまでたびたび総会などの場をお借りしてお願いして参りましたが、本誌は欧文雑誌として会員のみなさまの研究成果の普及をめざしておりますので、欧文原稿ございましたら是非投稿ください。

3. 中東関係博士論文欧文要旨についてのお願い

こちらも毎度のお願いですが、中東学会年報には中東関係博士論文欧文要旨が掲載されています。近年中に博士号を取得された方でまだ投稿されていない会員の皆様、是非、ご投稿をお願いします。

4. 本誌に関するお問い合わせ

本誌に関するお問い合わせ先、原稿送付先は以下の通りです。

〒183-8534 府中市朝日町 3-11-1

東京外国語大学大学院 林佳世子研究室気付

『日本中東学会年報』編集委員会

ajames@tufs.ac.jp

5. 国際情報発信強化費の申請

中東学会年報は、長年にわたり科学研究費研究成果公開促進費の補助をうけて刊行されて参りました。しかし、今年度より申請の枠組みが大幅に変更となり、各学会誌への補助は「国際情報発信強化費」として申請することになりました。これは、日本の諸分野の学会に対し、学会誌の①欧文化と②オープンアクセスへの対応を求める施策の一環とみられています。日本中東学会では、これまでも学

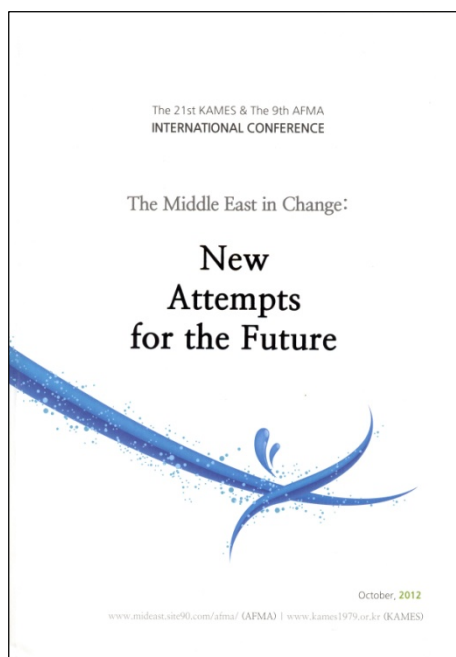
会誌の欧文化に努め、また CiNii を通じ電子ジャーナル化を果たして参りましたが、今後も引き続き補助金を獲得するには、この方向で更なる努力を求められることとなります。理事会で話し合った結果、国際交流をさらに進め、『日本中東学会年報』をアジア中東学会連合の共通プラットフォームに育てていくことなどを柱に「国際情報発信強化」に対応する方針をたてて科学研究費補助金の申請を行うことに決め、申請書を提出しました。今後の推移を見なければわからない点多々ありますが、次回の総会などの場で会員の皆様からご意見をいただければ幸いです。

(林佳世子)

アジア中東学会連合 (AFMA) 第 9 回大会に参加して

10月5、6日、韓国の釜山で、第9回 AFMA 大会が、第21回韓国中東学会 (KAMES) 国際大会と合同で開催された。AFMA は、日本中東学会、韓国中東学会、中国中東学会、モンゴル中東学会の四学会の連合体として 1995 年に設立され、二年に一度、参加学会の回り持ちで大会が開催される。釜山での開催は 2004 年の第 5 回大会に続いて、二回目となった。

今回の大会は、The Middle East in Change: New Attempts for the Future と題し、一日目には釜山外国語大学で、二日目には釜山コンベンションセンター (BEXCO) で開催された。韓国中東アフリカ研究所、釜山外国語大学地中海研究所、明知大学中東問題研究所などの共催の他、韓国アラブ協会、韓国基金など多くの後援を得ての開催であり、KAMES の熱の入れようがよくわかるプログラムであった。



[AFMA第9回大会プログラム]

協賛団体の多さもさることながら、パネル数も過去の大会に比べて圧倒的に多かった。一日目は 2 パネル (各パネルには各 2~2 報告がまとめられる)、二日目

は午前中 6 パネル、午後 5 パネルが開かれた。加えて、英国のエグゼター大学からスーダン研究、湾岸研究の大家、ティム・ニブロック教授が招聘され、アラブの春をテーマとした基調講演を行った。各パネル 10~50 人の参加者があり、釜山外国語大学の教員、学生のみならず、このためにソウルから駆けつけた韓国人研究者、学生も多かった。準備された昼食、夕食時にも、会場各地で活発な意見交換がなされ、活気が溢れていた。(なお、同日・同会場で京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科附属イスラーム地域研究センターと釜山外国語大学地中海研究所が共催するシンポジウム“Mediterranean’s Diversity & Middle East”が行われ、そちらに参加するために来場していた日本中東学会の会員 4 名も、会場の熱気を高めていた。)

ただ、難点をいえば、韓国、日本以外の参加者がほとんどいなかったことがある。特に、中国中東学会は、突然に参加を取りやめたとのことである。またモンゴル中東学会は、会長の子息と前回モンゴル大会の報告者が 1 名、参加したのみであった。

その結果、報告者は日本からの派遣団と KAMES の報告に独占されていた。特に日本中東学会からの参加者は、報告者が 15 名(川村藍、安田慎、スィナン・レバント、鈴木啓之、高岡豊、溝渕正季、岡戸真幸、岩坂将充、福島康博、岡真理、ホサム・ダルウィッシュ、近藤重人、鶴戸聡、遠藤春香、二ツ山達郎)、臼杵会長、新井事務局長、国際交流担当理事(酒井)および地中海学会参加者を合わせて、20 人を超える大人数となった。当初 6 人程度と参加者数を限定していた AFMA 実行委員会だったが、途中で全員参加を認めていただき、暖かく受け入れていただいた KAMES 側の好意には、本当に感謝の言葉もない。

日本側の報告者はいずれも若手研究者が主で、その報告もしっかり準備されたものが多かった。学会国際交流事業に携わって長くなるが、数年前には英語の報告もおぼつかない報告者が少なくなかったのに対して、大きく進歩したものだ、と、感激した。これも、若手研究者に海外での報告機会を促してきた学会の方針が正解だったことの証左だろう。大会後、KAMES のチェ元会長が、「日本は若手研究者が積極的に報告していて、素晴らしい。KAMES も見習わなければ」といつてくださったのが、何よりのお褒めの言葉であった。

次回の第 10 回 AFMA 大会(2014 年)は、日本中東学会が主催学会となる。釜山大会で中国中東学会のプレゼンスがなかったこと、モンゴル学会も低調であることを考えると、次回の開催に際して AFMA をいかに立て直すか、課題は大きい。釜山での AFMA 理事会(日本側臼杵会長、新井事務局長、酒井理事出席)でも、今後の AFMA 活動の維持発展のために、さらに参加国を増やしてはどうか、との意見が出された。引き続き中国側の参加を一層促す必要があるが、同時に東南ア

ジアなどへも対象を広げるなど、検討すべきだろう。

(酒井啓子)

寄贈図書

【単行本】

新井和広編著『ジャウィ文字でつながる東南アジア・イスラーム世界——ジャウィ定期刊行物創刊号巻頭言』、HINU Program, Islamic Area Studies SIAS Working Paper Series 12、東京：上智大学アジア文化研究所・イスラーム研究センター、2012年。

近藤洋平『日本におけるオマーン関連文献目録』、東京：東京大学中東地域研究センター、スルタン・カブース・グローバル中東研究寄付口座、2012年。

高尾賢一郎『現代スーフイズム研究基礎文献目録』、HINU Program, Islamic Area Studies SIAS Working Paper Series 16、東京：上智大学アジア文化研究所・イスラーム研究センター、2012年。

安田慎『イスラームとツーリズムをめぐる研究文献目録』、HINU Program, Islamic Area Studies SIAS Working Paper Series 15、東京：上智大学アジア文化研究所・イスラーム研究センター、2012年。

Kawashima, Midori (ed.). *The Qur'an and Islamic Manuscripts of Mindanao*. Institute of Asian Cultures, Sophia University Monograph Series No. 9. Tokyo: Institute of Asian Cultures, Sophia University, 2012.

Sugahara, Yumi (ed.) *Comparative Study of Southeast Asian Kitabs: Paper of the Workshop held at Sophia University, Tokyo, Japan on October 23, 2011*. HINU Program, Islamic Area Studies SIAS Working Paper Series 14. Tokyo: Institute of Asian Cultures - Center for Islamic Studies, Sophia University, 2012.

【逐次刊行物】

『dānah 日本クウェイト協会報』No. 228、日本クウェイト協会、2012年7月。

『sadāqah 日本サウディアラビア協会報』No. 227、2012年9月。

ami: Association Meetings International. February 2012, June 2012. CAT Publications, United Kingdom.

ILCAA (Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa) 2012, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2012年。

Journal of the American Research Center in Egypt. Vol. 47. The American Research Center in Egypt, 2011.

会員の異動

【新入会員】

池北 眞帆

澁谷 朋樹

田中 聡一郎

山路 浩夫

Dr. Saleh
Muhammad Zeki
Mahmood
Al-Leheabi

【所属先・連絡先の訂正・変更】

相島 葉月

粟倉 宏子
大川 真由子
黒田 賢治

後藤 明

近藤 洋平

清水 理恵

大工原 桂

濱田 聖子

黛 秋津

吉田 敦

事務局より

公開講演会と科研費の申請書作成が無事に終わると、次は役員選挙開票になります。最初は何が何だか分からずに始めた事務局の仕事も、気付けばルーチンが出来上がっています。仕事にかかる時間は同じですが、以前のように何が何だか分からなくて右往左往することがなくなった分、精神的にも楽になりました。事務局を引き受けるまでは何となく学会活動をしていましたが、実際に事務を試みると様々な人に支えられて学会が運営されてきたのだと実感します。とはいえ、現事務局もあとわずかで終わりになります。長いようで短い2年間でしたが、残りの期間、何とか事務が滞らないよう頑張ります。

編集後記

なんだか今年の秋は短くて、冬が早足で到来した気がします。電子版ニューズレターの第1号ということで張り切っていたはずが、とても簡素なものになってしまいました。シリアやガザでの惨い写真を見すぎたせいか、それとも評議員選挙理事に際して自分がニューズレター編集に携わるのもあと多くて2回と思って気が抜けたせいなのでしょうか。

次号では新しい理事会の体制をお知らせすることになるはずですが、「曲がり角」と言いあきた気もしますが、団塊の世代の停年退職、中東の政治環境のみならず、学会員が研究対象とする生活世界がインドや東南アジアのイスラムと連携してさらに展開し、研究環境も変わってきていることに対応してゆかなくてははいけないでしょう。新しい形式のニューズレターが、会員の意識を高め交流を深めることに貢献できることを期待したいところです。どうか、よいお年をお迎えください。

(山岸智子)



会費納入のお願い

本会は会費前納制をとっております。本号からニューズレターを電子化したため、会員の皆様には会費納入用の郵便振替用紙を郵送することができません。お手数ですが、納入済の年度を各自で御確認の上、下記の口座（郵便振替、銀行）に口座をお振り込みいただきますようお願い申し上げます。納入済の年度がお分かりにならない場合は、事務局まで気軽にお尋ねください。AJAMES に未送付分がある場合は、2012 年度以前の未納分会費の払込確認後お送りいたします。会費納入率は低い状態が続いており、学会事務局の運営にも支障を来しかねない状況です。是非とも会費納入を宜しくお願い申し上げます。

日本中東学会ニューズレター 第129号

発行日 2012年11月27日
発行所 日本中東学会事務局
印刷所 東洋出版印刷株式会社

日本中東学会事務局

〒223-8521
神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1
慶應義塾大学商学部
新井和広研究室内
日本中東学会事務局
電話/ファクス：045-566-1247
Eメール: james@james1985.org
<http://www.james1985.org>
郵便振替口座：00140-0-161096（日本中東学会）
銀行口座：三井住友銀行渋谷支店（普）5346808
（日本中東学会 代表 臼杵 陽）